1. 支援事業者情報

(1) 事業者名（＊）

Cross Research有限責任事業組合

(2) ホームページアドレス（＊）

https://crossresearch.jp/

(3) 代表者の役職、氏名（＊）

代表パートナー　林 正也

(4) 設立年月（＊）

2023年1月

2. 事業の背景について

(1) 貴社はどういった会社ですか（理念、特徴、一言、他）。（200字程度）（＊）

研究によって生み出された技術を適切な市場、パートナーと繋ぐ事で新たな価値を創造し、社会に貢献することを理念としています。弊社では深い科学的洞察とアブダクションにより、共創や事業創造を目指す事業会社の新規事業部門、研究企画部門などに対し、技術のリサーチおよび技術の事業化のコンサルティングを行います。同時にスタートアップの成長支援や、大学とのアライアンスを通した産学連携支援も行っており技術の社会実装を目指しております。

(2) どのような問題意識から、貴社を創業されましたか。（200字程度）（＊）

アカデミアやスタートアップにはユニークな技術が多数あるにも関わらず、多くが埋もれてしまう。あるいは、マッチングしたがプロジェクトが頓挫してしまうといった事例を多く目の当たりにしました。これらの大きな要因の一つは事前リサーチの段階で本質的な要件の合致がなされていない事であると感じ、マッチングを行う前の段階でアブダクション（仮説思考）により企画立案までを見越したリサーチの提供に至りました。さらに着手したテーマの事業化支援を開始いたしました。

3. 事業について

(1) 貴社ホームページから、支援内容・サービスに関する主なサイトURLを記載ください。

https://crossresearch.jp/service

(2) 特にアピールしたい支援内容・サービスについてご紹介ください。（200字程度）（＊）

弊社では、プロフェッショナルリサーチ、研究データベース、共創支援プログラムの3サービスを中心に提供しております。特にプロフェッショナルリサーチでは、技術、マーケット、経営環境など多様な情報をリサーチした後、アブダクション（仮説思考）というメソドロジーにより情報を統合します。さらにデータベースなどの網羅的情報を元にしたマクロ分析とそれを踏まえた戦略策定、そして事業検証を伴った事業化支援までの一貫した支援を行なっております。

(3) 特にアピールしたい支援内容・サービスの価格帯をお示しください。

1. サービス名や内容：プロフェッショナルリサーチ
   上記サービスの価格帯（右の①～⑦）：⑥
2. サービス名や内容：研究データベース
   上記サービスの価格帯（右の①～⑦）：⑤
3. サービス名や内容：共創支援プログラム
   上記サービスの価格帯（右の①～⑦）：⑦

（足りなければ行を追加ください）

(4) 貴社における、連携先の探索の仕方をご説明ください。（200字程度）（＊）

各種イベントの出席や調査における直接の交流を通し、弊社独自のネットワークを構築しております。さらに、それらネットワークを起点としてPuiPや研究大学コンソーシアム等の大学研究者を中心としたネットワークとの提携し、国内の研究者やスタートアップにおける連携先を拡大しております。加えて、NGLI社によるイスラエルの大学および大学発スタートアップなど海外提携先の開拓も行なっております。

(5) 支援サービスの特徴をご説明ください。（400字まで）（＊）

プロフェッショナルリサーチでは、技術、マーケット、経営環境など多様な情報を統合するアブダクション（仮説思考）というメソドロジーを取り入れている点が最も特徴的です。特に技術リサーチでは領域に特化したドメイン専門リサーチャーをプロジェクトごとにアサインする事で、当該技術領域における土地勘と呼べるような非定型の知見を組み込むことで、情報の羅列ではなく「なぜ結果としてこの技術が発展し、それがマーケットにどのようにつながっているのか？経営観点で何を行うべきか？」などのストーリー構築まで行なっております。さらに、弊社独自の研究者ネットワークに加え、大学研究者ネットワークや、イスラエルエコシステムなどとの外部連携も行なっており、幅広い領域においてリサーチのみならずPoC等の検証を含む事業化フェーズまで支援ができる体制でサービスの提供を行なっております。

(6) 具体的な支援事例についてご記載ください。(400字まで)（＊）
貴社ホームページで紹介されている場合は、そのURLをご記載ください。

弊社では、新テーマの創出や技術パートナー探索といったご支援を多数行なっております。大手製造業A社では複数年プロジェクトにおける新たなテーマの候補として、メディカル領域における成分Aの事業展開を検討しており、市場性、妥当性の評価に加え、技術戦略部分について見定めるべく、リサーチをお願いしたいというご依頼をいただきました。調査の結果、製造方法のブレイクスルーとメディカル分野への展開において可能性を示唆するに至り、テーマ着手に繋がりました。
また、音響製品C社の事例では、聞こえやすさの客観的評価ができておらず、詳細なメカニズムも明らかではないため、新しい共同研究先の探索と、その要件を決めるご支援をいたしました。同社ではすでに各種測定やリスニングテストを行ったものの明確なエビデンスは得られていない状態でしたが、認知という観点から全くスコープ外だった脳機能測定の研究者を見出し共同研究に至りました。

(7) 支援を受けた際に期待される効果についてご記載ください。(400字まで)（＊）

事業探索をされる際に、「やりたい事に対してどういった領域が関連するのか？」「関連技術として現在調査している内容は正しいのか？」などに疑念をお持ちの方が多くいらっしゃいます。従いまして、弊社ではお客様の目標をお伺いした上でどこをどう調べるべきかの設計を行いすり合わせいたします。それを踏まえ全体の概要や当該領域におけるトレンド、プレイヤー、技術動向など調査を行い、仮説構築まで行いますので、お客様にとっては「目的を達成するためには、どの領域に対してリソースを投下し、尚且つ諸々の状況を勘案した上でどういった初手を打つべきか？それに必要なパートナーや競合が誰なのか？」を把握した上で事業計画の立案に進んでいただくことができます。また事業化支援では、然るべきパートナーのもとで検証を行い、進むべきかどうか、進むとすればどのように進めるべきかといった点までご判断いただけるようサポートいたします。

(8) これまでの事業化成功事例や実績についてご記載ください。(400字まで)
・ご記載の事例が、別ページにある製品−市場成長マトリックスのうち「新製品開発」、「新市場開拓」、「多角化」のいずれに該当するかお示しください。
・ホームページで紹介されている場合は、そのURLをご記載ください

当社では市場成長マトリックスの縦軸を「技術」として、オープンイノベーションによる「新技術の獲得」と「新市場開拓」を支援しております。代表的な事例では大手総合製造メーカーにおいて、全く異分野である「天然抽出成分を用いたライフサイエンスビジネスの開拓」といったテーマに対してリサーチを行い、市場機会の明確化と必要な技術パートナーのリストアップを行う事でテーマ推進の意思決定を支援し、事業化の一歩目として現在トライアルの段階まで進んでおります。弊社が行う支援の特徴は技術や市場、経営といった情報をアブダクションにより統合することですが、それにより本件では「市場として目指すべきはコモディティ化しつつある食品市場ではなくメディカル分野であること」と「そのために必要な濃縮に関わる技術に関して国内を中心にユニークなパートナー候補が数件ある」という二点を明らかにし、事業化成功をご支援いたしました。

4. 顧客について

(1) 貴社が想定される顧客像をご記載ください。(200字程度) （＊）

外部の技術的知見を活用して共創を目指す方全般が顧客になります。特に異分野への進出を希望されており、当該領域についての知見を十分にお持ちでない事業会社の新規事業担当部門の方、既存事業に加えて新たな事業の柱を模索されている経営層の方々に対して最も大きな価値提供が可能であると考えております。また、スタートアップ側や研究者側の支援実績も豊富であるため、ケースバイケースで双方が私共の顧客となります。

(2) 顧客が抱える主な課題やニーズをご紹介ください。(200字程度) （＊）

既存事業のみでの長期的成長に危機感を感じ、新規事業創出を目指す企業や新たな研究テーマを模索する企業が日々日々増加しております。目標とする新規事業は既存領域の外側にあるため、十分な知見を持たれておらず事業判断に苦慮されるケースを多くお見受けします。また、自社にないリソースを持つ外部との連携を模索する場合でも、そもそもどんなパートナー候補がいるのか？その候補が確からしいかなどの判断にも大変苦労されております。

5. 貴社のお考え、今後の展望などをご記載ください。(400字まで) （＊）
(イノベーション、新規事業創出、オープンイノベーション活動、ビジョンやミッションなどについて)

私たちは、イノベーションや新規事業創出の裏方として、事業会社やスタートアップが描く世界観をストーリーに落とし込み、未来へとつながるパートナーシップの創出を目指して日々活動しています。現在は主に企画段階での支援を中心に行っていますが、最終的な目的はあくまで社会実装にあると考えています。そのため、私たち自身も外部との連携を活用し、事業化支援フェーズへとサービス範囲を拡大しています。
今後も積極的に連携ネットワークを広げ、Cross Researchがそのハブとなることで、コーディネーター不在や要件の不一致によって中断されがちだったプロジェクトを減らし、社会実装へとつながる共創プロジェクトの創出に貢献していきたいと考えています。さらに、そこで生まれたスタートアップの成長を支援することで、ユニークな技術が埋もれることなく、社会の一部として根づいていく未来を描いています。

6. 問合せ窓口 担当者の情報

(1) 担当部署（＊）

なし

(2) 担当者氏名

林 正也

(3) 電話番号（＊）

090-5677-6967

(4) メールアドレス（＊）

masaya@crossresearch.jp